



2026年3月期 決算説明会

2026年4月28日
株式会社オリエンタルランド

I . 決算概要

II . 2027年3月期 業績予想

III . 特別株主優待の実施

IV . 今後の見通し

I . 決算概要

前期比較はゲスト1人当たり売上高の増などにより売上高は過去最高となったものの、各コストが増加し、減益。期初予想比較はゲスト1人当たり売上高の増などにより期初予想を上回った

(億円)

連結損益計算書	2026年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前年 増減	対前年 増減率	2026年3月期 期初予想	対期初予想 増減	対期初予想 増減率
売上高	7,045	6,793	251	3.7%	6,933	111	1.6%
テーマパーク事業	5,683	5,521	162	2.9%	5,601	82	1.5%
ホテル事業	1,190	1,104	85	7.8%	1,172	17	1.5%
その他の事業	171	167	3	2.3%	159	12	7.6%
営業利益	1,684	1,721	△ 36	△ 2.1%	1,600	84	5.3%
テーマパーク事業	1,304	1,404	△ 99	△ 7.1%	1,239	65	5.3%
ホテル事業	368	304	63	20.9%	358	9	2.8%
その他の事業	4	6	△ 1	△ 22.9%	△ 2	7	-
経常利益	1,696	1,733	△ 36	△ 2.1%	1,608	88	5.5%
特別利益	5	2	2	115.6%	-	5	-
税金等調整前当期純利益	1,701	1,735	△ 34	△ 2.0%	1,608	93	5.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,218	1,241	△ 22	△ 1.8%	1,133	85	7.5%

当期実績（前期比較・期初予想比較）

当期累計の実績は、ご覧の通りです。

前期比較は、ゲスト1人当たり売上高の増などにより、売上高は過去最高となったものの、各コストが増加し、減益となりました。

一方、期初予想比較は、

ゲスト1人当たり売上高の増などにより、売上高・営業利益ともに期初予想を上回りました。

また、通期業績を踏まえ、2026年3月期の年間配当金は、1株当たり期初発表予想よりも1円増配し、15円としました。

テーマパーク事業
売上高

入園者数は前期とほぼ同様、ゲスト1人当たり売上高は過去最高

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高(億円)	5,521	5,683	162	2.9%
入園者数(万人)	2,756	2,753	△ 2	△ 0.1%
ゲスト1人当たり売上高(円)	17,833	18,403	571	3.2%
アトラクション・ショー収入	9,386	9,608	222	2.4%
商品販売収入	5,084	5,227	142	2.8%
飲食販売収入	3,362	3,569	206	6.1%

入園者数はほぼ同様

- ー 前期のスペース・マウンテンなどのクローズ前需要による減
- ー スペシャルイベントの好調による増
- ー ファンタジースプリングスの通期稼働による増

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・ アトラクション・ショー収入の増
 - ー ディズニー・プレミアアクセスの増
 - ー 変動価格制による高価格帯チケット構成比の増
- ・ 商品販売収入の増
 - ー ダッフィー & フレンズ20周年関連商品の増
 - ー スペシャルイベント関連商品の増
 - ー ファンタジースプリングス関連商品の減
- ・ 飲食販売収入の増
 - ー 前期の休止店舗の再開による増

当期実績(前期比較) - 主な増減要因

セグメント別の実績と増減要因をご説明します。

前期と比較して、テーマパーク事業の売上高は、162億円増の5,683億円となりました。

入園者数は、前期とほぼ同様となりました。

要因として、前期のスペース・マウンテンなどのクローズ前需要による減と
スペシャルイベントやファンタジースプリングスの通期稼働などによる増がありました。

ゲスト1人当たり売上高は、

アトラクション・ショー収入の増などにより、過去最高となる18,403円となりました。

アトラクション・ショー収入は、ディズニー・プレミアアクセスの増や、
変動価格制による高価格帯チケット構成比の増などにより、増加しました。

商品販売収入は、ダッフィー & フレンズ20周年関連商品の増や、
スペシャルイベント関連商品の増などにより、増加しました。

飲食販売収入は、前期の休止店舗の再開などにより、増加しました。

テーマパーク事業
営業利益

売上高が増したものの、人件費や諸経費の増などにより減益

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	5,521	5,683	162	2.9%
営業利益	1,404	1,304	△ 99	△ 7.1%

営業利益の減

			(億円)
売上高の増		諸経費の増	△ 112
商品・飲食原価率の減	13	メンテナンス費の増	△ 35
人件費の増	△ 112	システム関連費用の増	△ 25
前期と当期の業績賞与・一時金計上 差額による増	△ 44	租税公課の増	△ 21
正社員人件費の増	△ 43	その他	△ 31
準社員人件費の増	△ 16	減価償却費の増	△ 1
その他	△ 8		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

6

当期実績（前期比較）－ 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
売上高が増したものの、人件費や諸経費の増などにより、
99億円減の1,304億円となりました。

商品・飲食原価率は、
飲食原価率が、製造人件費率の増などにより増加したものの、
商品原価率が、売上構成の変化による使用原価率の減などにより減少し、
全体として減少しました。

人件費は、
前期と当期の業績賞与・一時金計上差額による増や、
賃金改定や人数増などにより、増加しました。

諸経費は、
ファンタジースプリングスによるメンテナンス費の増や、
IT機器の入れ替えによるシステム関連費用の増などにより、増加しました。

ホテル事業

客室単価の増や東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルの
通期稼働による宿泊収入の増などにより、売上高および営業利益は過去最高

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高(億円)	1,104	1,190	85	7.8%
ディズニーホテル	1,014	1,096	81	8.0%
客室稼働率(%、pt)	95.7	94.7	△ 1.0	
平均客室単価(円)	64,886	69,591	4,705	7.3%
その他ホテル	89	94	4	4.8%
営業利益(億円)	304	368	63	20.9%

売上高の増

- ・ 客室単価の増
- ・ 東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルの
通期稼働による増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増(△ 4億円)
 - ー 在籍者数の増・賃金改定による増
- ・ 減価償却費の増(△ 7億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

7

当期実績(前期比較) - 主な増減要因

ホテル事業は、
客室単価の増や、
東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテルの通期稼働による宿泊収入の増などにより、
売上高は85億円増の1,190億円となり、過去最高となりました。

当期のディズニーホテルの客室稼働率は、
東京ディズニーリゾート・バケーションパッケージ経由の予約の減により、1.0ポイント減の94.7%、
平均客室単価は、
4,705円増の69,591円でした。

営業利益は、
人件費や減価償却費が増加したものの、
売上高の増などにより、63億円増の368億円となり、
こちらも過去最高となりました。

その他の事業

イクスピアリ事業などの売上高の増はあったものの、各コストの増により減益

(億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	167	171	3	2.3%
営業利益	6	4	△ 1	△ 22.9%

売上高の増

- ・ イクスピアリ事業の増
- ・ モノレール事業の増

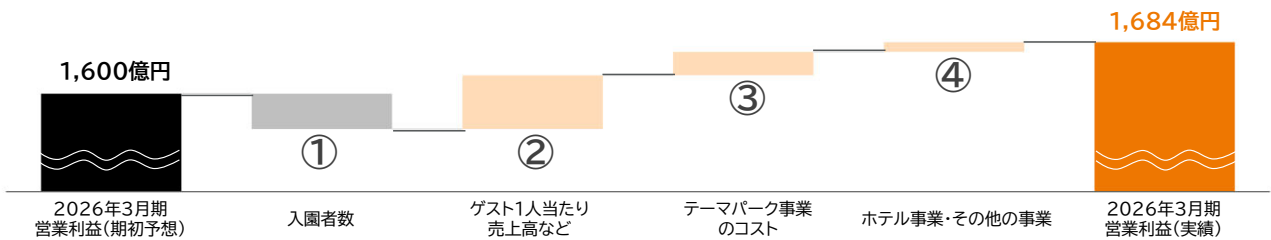
営業利益の減

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増
- ・ 諸経費の増

当期実績(前期比較) - 主な増減要因

その他の事業は、
イクスピアリ事業などの増により、
売上高は3億円増の171億円、
営業利益は、人件費の増や諸経費の増などにより、
1億円減の4億円となりました。

ゲスト1人当たり売上高の増やテーマパーク事業のコストの減などにより、
売上高および営業利益は期初予想を上回った



	営業利益への影響	主な増減要因
①	下回った	・ 第4四半期における海外ゲストの減
②	上回った	・ 商品販売収入の増 ・ 飲食販売収入の増 ・ ディズニー・プレミアアクセスの増
③	上回った	・ 諸経費の減
④	上回った	・ 婚礼・レストラン収入による増

当期実績（期初予想比較）－ 主な増減要因

期初予想比較について、ご説明します。

入園者数は主に第4四半期に期初予想を下回ったものの、
ゲスト1人当たり売上高の増などにより、入園者数の減少分をカバーし、
売上高および営業利益は、期初予想を上回りました。

Ⅱ. 2027年3月期 業績予想

ディズニーホテルにおける大規模な客室修繕工事などにより、一時的に減益を見込むものの、
様々な施策を実行することで、業績への寄与を狙う

ディズニーホテル	- 東京ディズニーリゾート[®] 45周年に向けた、一部ディズニーホテルにおける客室修繕工事の実施 - 東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ[®] : 2026年8月19日～2027年7月20日 - 東京ディズニーセレブレーションホテル[®] : 2026年7月1日～2027年3月31日
コスト	メンテナンス費や、東京ディズニーシー[®] 25周年イベント関連費用の増などにより、増加を見込む
東京ディズニーシー 25周年イベント	「ジュビリーブルー」のテーマカラーで統一した様々なコンテンツを展開
パークチケット	- パークの体験価値やゲストの需要動向などを踏まえた適正価格の設定 - 現在の価格帯における構成比の変更や、価格帯自体の変更も視野に検討
ディズニー・ プレミアアクセス	- 対象施設の拡大や適正価格を検討 - ディズニー・プレミアアクセスを来園前に購入できるサービス導入に向けた準備

11

業績予想の前提

まずは、2027年3月期の業績予想の前提についてご説明します。

2027年3月期は、ディズニーホテルの大規模な客室修繕工事などにより、
一時的に減益となる見込みではあるものの、
様々な施策を実行することで、業績への寄与を狙っていきます。

東京ディズニーシー25周年イベントを開催するほか、
ディズニー・プレミアアクセスについては対象施設の拡大や適正価格の検討に加え、
来園前に購入できるサービスの導入に向けた準備を行っていきます。

入園者数やゲスト1人当たり売上高の増などにより増収を見込むものの、
ホテル事業の客室修繕工事や各コストの増などにより減益となる見込み

(億円)

連結損益計算書	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	増減率
売上高	7,045	7,243	197	2.8%
テーマパーク事業	5,683	5,922	238	4.2%
ホテル事業	1,190	1,157	△ 32	△ 2.8%
その他の事業	171	163	△ 8	△ 4.9%
営業利益	1,684	1,607	△ 76	△ 4.5%
テーマパーク事業	1,304	1,287	△ 17	△ 1.4%
ホテル事業	368	307	△ 61	△ 16.6%
その他の事業	4	8	3	69.4%
経常利益	1,696	1,680	△ 15	△ 0.9%
税金等調整前当期純利益	1,701	1,680	△ 21	△ 1.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,218	1,137	△ 80	△ 6.6%

12

通期予想 (前期比較)

2027年3月期通期業績予想は、ご覧のとおりです。

当期は、入園者数やゲスト1人当たり売上高の増などによる増収を見込んでいるものの、
ホテル事業の客室修繕工事や各コストの増などにより、減益となる見込みです。

テーマパーク事業
売上高

東京ディズニーシー25周年イベントや海外ゲスト数の増などにより、
入園者数は増加の見込み

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	増減率
売上高(億円)	5,683	5,922	238	4.2%
入園者数(万人)	2,753	2,800	47	1.7%

入園者数の増

- ー 東京ディズニーシー25周年イベントによる増
- ー 海外ゲスト数の増

13

通期予想(前期比較) - 主な増減要因

セグメント別の増減要因をご説明します。

テーマパーク事業の売上高は、
238億円増の5,922億円となる見込みです。

入園者数は、
東京ディズニーシー25周年イベントや、
海外ゲスト数の増などにより、
47万人増の2,800万人を見込んでいます。

海外ゲストについては、
中東情勢の悪化や、日中関係の影響など、
不透明な外部環境ではあるものの、
訪日外国人の増や販促活動の強化により、増加を見込んでいます。

テーマパーク事業
売上高

ゲスト1人当たり売上高はアトラクション・ショー収入の増により、過去最高を更新

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	増減率
売上高(億円)	5,683	5,922	238	4.2%
ゲスト1人当たり売上高(円)	18,403	18,712	309	1.7%
アトラクション・ショー収入	9,608	10,001	393	4.1%
商品販売収入	5,227	5,170	△ 56	△ 1.1%
飲食販売収入	3,569	3,541	△ 28	△ 0.8%

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・ アトラクション・ショー収入の増
 - ー 変動価格制による高価格帯チケット構成比の増
 - ー ディズニー・プレミアアクセスの増
 - ー 東京ディズニーリゾート・バケーションパッケージの増
- ・ 商品販売収入の減
 - ー レギュラー商品の減
 - ー ダッフィー＆フレンズ20周年関連商品の販売終了による減
 - ー 東京ディズニーシー25周年関連商品の増
- ・ 飲食販売収入はほぼ同様

14

通期予想(前期比較) - 主な増減要因

ゲスト1人当たり売上高は、
309円増の18,712円となる見込みです。

アトラクション・ショー収入は、
変動価格制による高価格帯チケット構成比の増や、
ディズニー・プレミアアクセスの増などにより、増加する見込みです。

商品販売収入は、
東京ディズニーシー25周年関連商品の増を見込むものの、
レギュラー商品の減や、
ダッフィー＆フレンズ20周年関連商品の販売終了による減などにより、
減少する見込みです。

飲食販売収入は、
ほぼ同様となる見込みです。

テーマパーク事業
営業利益

売上高が増えるものの、諸経費や人件費の増などにより減益の見込み

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	増減率
売上高	5,683	5,922	238	4.2%
営業利益	1,304	1,287	△ 17	△ 1.4%

(億円)

営業利益の減

売上高の増	
商品・飲食原価率の増	約△ 15
人件費の増	約△ 25
前期業績賞与計上による減	59
正社員人件費の増	約△ 55
準社員人件費の増	約△ 10
その他	約△ 20

諸経費の増	約△ 165
メンテナンス費の増	約△ 45
東京ディズニーシー25周年イベント 関連費用の増	約△ 25
研究開発費の増	約△ 15
システム関連費用の増	約△ 10
エンターテインメント関連費用の増	約△ 10
その他	約△ 60
減価償却費の減	1

(億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

15

通期予想(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
17億円減の1,287億円となる見込みです。

商品・飲食原価率は、
為替影響による増などにより、
約15億円の増加を見込んでいます。

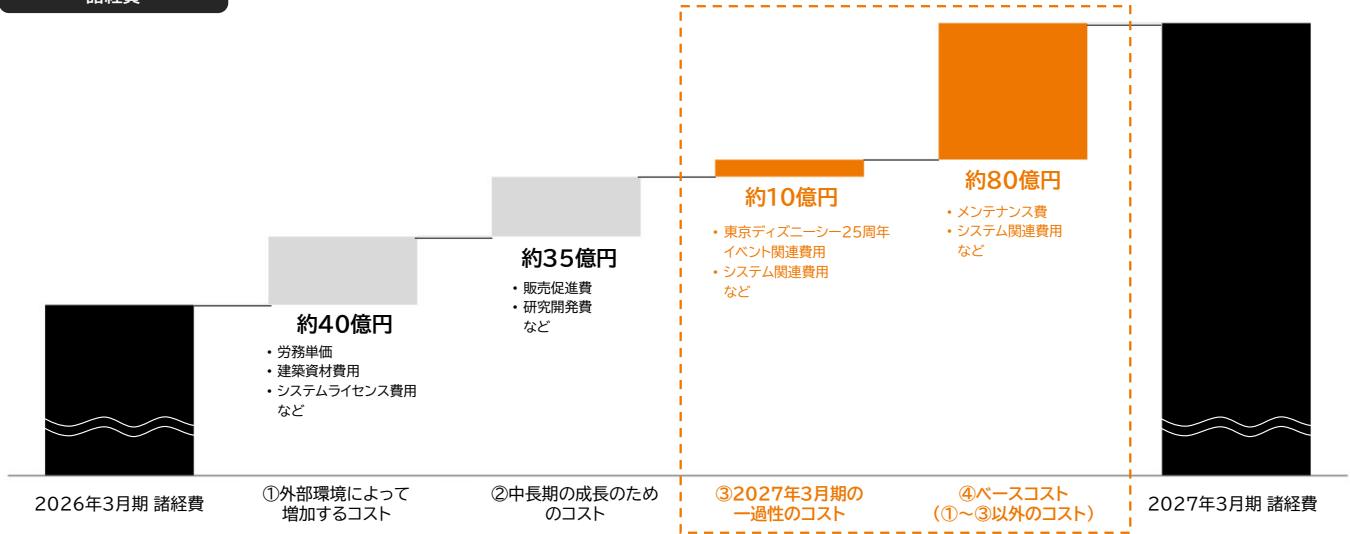
人件費は、
前期業績賞与計上による減を見込むものの、
賃金改定や、人数増などにより、
約25億円の増加を見込んでいます。

諸経費は、
メンテナンス費の増や東京ディズニーシー25周年イベント関連費用の増などにより、
約165億円の増加を見込んでいます。

当期は様々な要素によりコストが増加する。
 今後は中長期的に、コストコントロールによる適正化を目指し、増加幅を最小限に抑える

テーマパーク事業
諸経費

中長期的なコストコントロールの対象となるコスト



16

通期予想（前期比較）－主な増減要因

諸経費について、詳細をご説明します。

諸経費は、約165億円の増加を見込んでおり、増減のイメージはご覧のとおりです。

約40億円の増については、外部環境によって増加するコストであり、今後も増加を見込んでいます。

約35億円の増については、中長期の成長のためのコストです。

2027年3月期の一過性のコストの約10億円と、ベースコストの約80億円については、中長期的なコストコントロールの対象となるコストです。

今後は予算管理体制を抜本的に見直し、必要なコストには適切に配分することで、不要なコストは削減していきます。
 予算の精度を高め、計画通りに実行できる体制の構築を目指していきます。

中長期的に、コストコントロールによる適正化を目指し、増加幅を最小限に抑え、2035長期経営戦略で掲げている財務目標を達成していきます。

ホテル事業

客室修繕工事により、減収減益の見込み

(億円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	増減率
売上高	1,190	1,157	△ 32	△ 2.8%
ディズニーホテル	1,096	1,075	△ 20	△ 1.9%
その他ホテル	94	82	△ 12	△ 12.8%
営業利益	368	307	△ 61	△ 16.6%

売上高の減

- ・ 客室修繕工事による宿泊収入の減
- ・ その他ホテルの減

営業利益の減

- ・ 売上高の減
- ・ 人件費の減(約 10億円)
 - － 前期業績賞与計上による減
- ・ 諸経費の増
 - － 客室修繕工事による修繕費の増

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

17

通期予想(前期比較) - 主な増減要因

ホテル事業の売上高は、
客室修繕工事により、32億円減の1,157億円を見込んでいます。

営業利益は、
客室修繕工事にかかる修繕費の増などにより、
61億円減の307億円を見込んでいます。

その他の事業

事業再編などにより減収となるものの、諸経費の減などにより増益の見込み

(億円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	増減率
売上高	171	163	△ 8	△ 4.9%
営業利益	4	8	3	69.4%

売上高の減

- ・ 事業再編による減

営業利益の増

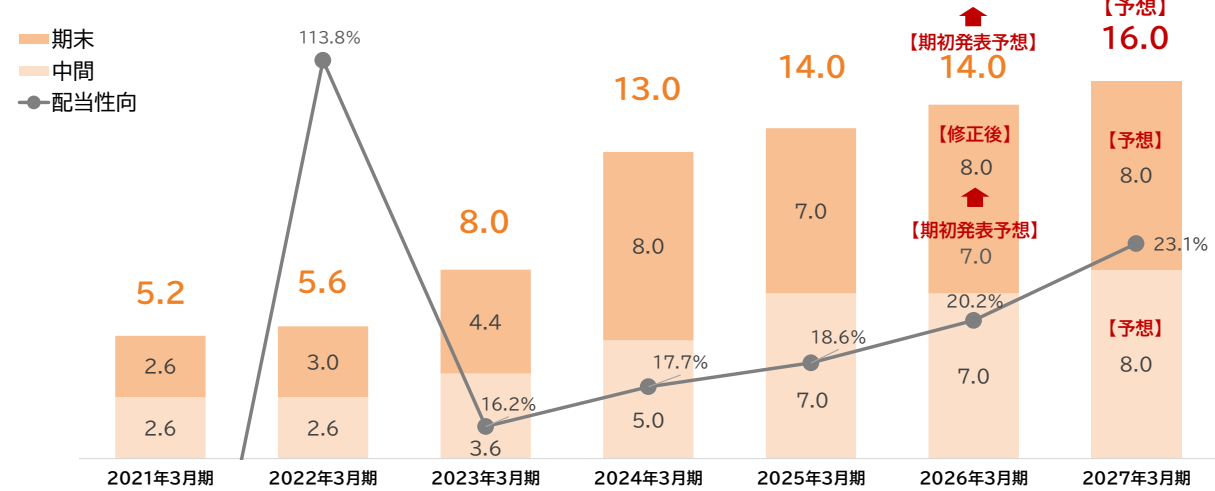
- ・ 諸経費の減

通期予想(前期比較) - 主な増減要因

その他の事業は、
売上高は8億円減の163億円、
営業利益は3億円増の8億円となる見込みです。

通期業績を踏まえ、2026年3月期の期末配当金を期初発表予想よりも1円増配。
2027年3月期の年間配当金は、1株当たり1円増配し、16円を予想

配当金の推移 (円)



※ 2023年4月1日を効力発生日として、1株につき5株の株式分割を実施しました。
2023年3月期以前の配当は、株式分割からさかのぼって便宜的に計算したものです。

19

株主還元について

配当についてご説明します。

通期業績を踏まえ、2026年3月期の年間配当金は、
1株当たり期初発表予想よりも1円増配し、15円としました。

2035長期経営戦略で発表のとおり、
引き続き安定配当を継続しながら、成長投資に優先的に資源配分を行いつつ、
2035年までに配当性向を30%の水準まで継続的に高めていきます。

2027年3月期の年間配当金は、
前期より1円増配の1株当たり16円を予想しています。

Ⅲ. 特別株主優待の実施

上場30周年の感謝の意を込めて、特別株主優待を実施する

特別株主優待の実施

特別株主優待※1

優待内容	通常の株主優待制度の配布に加え 1デーパスポート※2を1枚
保有株式数	100株以上保有
配布対象	2026年9月30日時点(基準日)で 当社株式を保有いただいている株主
配布時期	2026年12月(予定)

※1 本特別株主優待は、上場30周年を記念して、今回限り現行の通常優待および長期優待に加えて行うもの

※2 東京ディズニーランド®または東京ディズニーシー®どちらかのパークでご利用いただける、有効期間が2027年8月31日までの1デーパスポート

配布基準

所有株式数	9月末	3月末	合計	長期※3	特別株主優待※1
100株未満	-	-	-	-	-
100株以上	-	-	-	1枚	1枚
500株以上	-	1枚	1枚		
2,000株以上	1枚	1枚	2枚		
4,000株以上	2枚	2枚	4枚		
6,000株以上	3枚	3枚	6枚		
8,000株以上	4枚	4枚	8枚		
10,000株以上	5枚	5枚	10枚		
12,000株以上	6枚	6枚	12枚		

2026年4月時点(通常株主優待・長期保有株主優待)

※3 本長期保有株主優待の配布基準は、2023年9月30日の基準日以降、100株以上の当社株式を3年以上継続して保有いただいた株主*

*毎年3月31日を基準日および9月30日を基準日とする株主名簿に、同一の株主番号で、連続して7回以上記載された株主

特別株主優待の実施

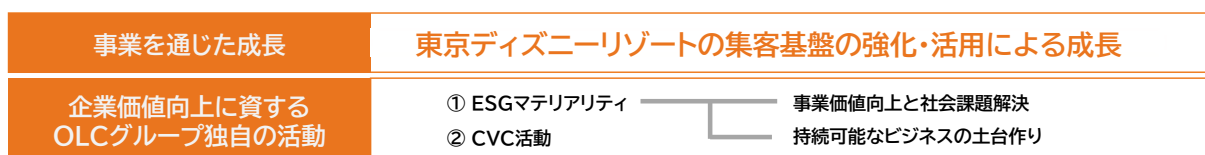
当社グループは今年で上場30周年を迎えます。
株主の皆さまに今までの感謝の意を込めて、
特別株主優待を実施することとし、
2026年9月30日時点で100株以上保有していただいている株主の皆様に、
1デーパスポートを1枚配布します。

2035長期経営戦略で発表のとおり、
配当性向の向上や、自己株式の取得、株主優待の拡充などにより
引き続き株主還元を強化していきます。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、
これからも成長していく当社グループを中長期的に見守っていただきたく、
ご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

IV. 今後の見通し

当社グループの更なる発展と進化に向け長期経営戦略を推進し、財務目標を達成する



人事方針

新しい価値を生み出し続ける集団への進化

財務方針

企業価値向上に向けた最適資本構成の追求

2022-2024年度

2025-2029年度

2030-2035年度

2024中期経営計画
感染症流行からの
回復とチャレンジ

2035長期経営戦略

持続的成長に向けた事業構造の進化と
最適資本構成の追求による、企業価値の向上

2029年度目標

営業キャッシュ・フロー

3,000億円レベル

2035年度目標

売上高

1兆円以上

ROE

2024中期経営計画期間より **更に上の水準** を目指す

23

2035長期経営戦略の概要

2025年4月に掲げた2035長期経営戦略の概要は、
ご覧のとおりです。

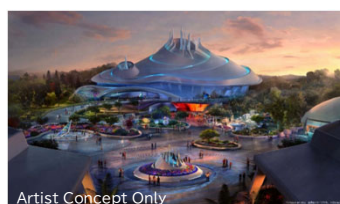
2026年3月期は2035長期経営戦略初年度として、
目標に向けた取り組みを着実に進捗させました。

例えば、テーマパーク事業における成長投資については、
新規アトラクションの開発に向けて着実に推進させており、
クルーズ事業については、
スピード感のある事業化およびクルーズ船の経営・運営を、専門的・機動的に行うことを目的に、
子会社「株式会社オリエンタルランド・クルーズ」の設立を決議しました。

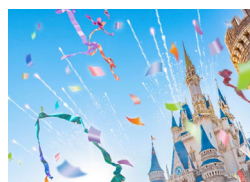
今後も、全社の成長に向けた取り組みを着実に実施していきます。

2035長期経営戦略に変更はない。連続的な成長投資の手を緩めず、掲げている目標を達成する

成長投資・コンテンツの一例



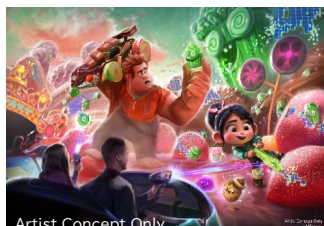
Artist Concept Only
スペース・マウンテンと周辺エリアの一新



東京ディズニーリゾート45周年イベント



東京ディズニーシー25周年イベント



Artist Concept Only
『シュガー・ラッシュ』の世界を
舞台としたアトラクション



ディズニー・クルーズライン・ジャパン
(2028年度に就航を開始し、2029年度には通年稼働)
※写真はディズニー・クルーズラインの「ディズニー・ウィッシュ」

As to Disney Properties ©Disney

24

2035長期経営戦略の今後の見通し

2035長期経営戦略で掲げている目標に、変更はございません。
今後も連続的な成長投資の手を緩めず、
2035長期経営戦略で掲げている目標の達成を、目指していきます。

テーマパーク事業に加えて、ディズニー・クルーズライン・ジャパンが
2028年度に就航を開始し、2029年度には通年稼働する予定です。
東京ディズニーリゾートの更なる魅力向上に加え、
ファミリーエンターテインメントクルーズを提供することで、
ゲストのハピネスの創造に邁進していきます。

ゲストの想像を超える体験の創出に向けて、着実な成長を重ねていく



As to Disney Properties ©Disney

25

今後に向けて

最後になりますが、改めて私の想いをお伝えします。

今年は東京ディズニーシー25周年という大きな節目を迎えます。
四半世紀という歴史の中で、東京ディズニーシーは多くの挑戦を重ね、
そのたびに新しい感動を生み出してきました。
外部環境の変化がある中でも、私たちが提供したい価値は変わらず、
次の飛躍に向けた議論を着々と進めています。

私たちの使命は、ゲストに心から楽しんでいただける場所を提供することです。
子供たちにとっては、冒険し、想像力をはたらかせ、夢をえがき、
大人たちにとっては、すべてを忘れて非日常を思う存分楽しんでいただく世界を提供したいと考えています。
東京ディズニーリゾートだけでなく、クルーズ事業においても、
ゲストの想像を遥かに超える体験を、これからもお届けしていきたいと思ひます。

これからの当社グループの未来に、どうぞご期待ください。

Appendix

パーク内施設等の体験時間や入場時刻を指定して予約できる有料のサービス。少ない待ち時間で施設の利用が可能

東京ディズニーランド アトラクション	導入日	価格	東京ディズニーランド エンターテインメント	導入日	価格	
美女と野獣“魔法のものがたり”	2022年5月19日	¥2,000	ディズニー・ハーモニー・イン・カラー	2023年4月15日	¥2,500	
スプラッシュ・マウンテン	2022年12月1日	¥1,500	東京ディズニーランド・ エレクトリカルパレード・ドリームライツ	2023年4月15日	¥2,500	
バイマックスのハッピーライド	2022年12月1日	¥1,500	Reach for the Stars	2024年9月20日*1	¥2,500	
			ミッキーのマジカルミュージックワールド	2024年11月13日	¥2,500	
			クラブマウスビート	終了	2024年11月13日*2	¥2,500
			ディズニー・パルパルーザ クワッキーセレブレーション★ ドナルド・ザ・レジェンド！	終了	2025年4月8日*3	¥2,500
			ザ・ヴィランズ・ハロウィーン “Into the Frenzy”	終了	2025年9月17日*4	¥2,500
			トイズ・ワンダラス・クリスマス！	終了	2025年11月11日*5	¥2,500
			ディズニー・パルパルーザ ミニ@ファンダーランド	終了	2026年1月14日*6	¥2,500
			ディズニー・パルパルーザ イツ・ア・スウィーツフルタイム！		2026年4月9日*7	¥2,500
			The D-Groovionz4 Live: Happy! Funky! Groovy! Tour	2026年9月30日	¥2,500	

※2026年4月28日時点で公表しているものを記載しています。

*1 2026年9月14日で終了予定です。

*2 2026年3月30日で終了しました。

*3 2025年4月8日～6月30日の間、対象でした。

*4 2025年9月17日～10月31日の間、対象でした。

※2026年4月28日時点で公表しているものを記載しています。

*1 2026年9月14日で終了予定です。

*2 2026年3月30日で終了しました。

*3 2025年4月8日～6月30日の間、対象でした。

*4 2025年9月17日～10月31日の間、対象でした。

*5 2025年11月11日～12月25日の間、対象でした。

*6 2026年1月14日～3月2日の間、対象でした。

*7 2026年4月9日～6月30日の間、対象です。

パーク内施設等の体験時間や入場時刻を指定して予約できる有料のサービス。少ない待ち時間で施設の利用が可能

東京ディズニーシー アトラクション	導入日	価格	東京ディズニーシー エンターテイメント	導入日	価格
ソアリン:ファンタスティック・フライト	2022年5月19日	¥2,000	ビリーヴ! 〜シー・オブ・ドリームス〜	2022年11月11日	¥2,500
トイ・ストーリー・マニア!	2022年6月10日	¥2,000	ビッグバンドビート 〜ア・スペシャルトリート〜	2024年11月13日*1	¥2,500
タワー・オブ・テラー	2022年12月9日	¥1,500	ドックサイド・スプラッシュ・リミックス	2025年7月2日*2	¥2,500
センター・オブ・ジ・アース	2022年12月9日	¥1,500	ドリームス・テイク・フライト	2025年7月16日	¥2,500
アナとエルサのフロズンジャーニー	2024年6月6日	¥2,000	ダンス・ザ・グローブ!	2026年1月14日*3	¥2,500
ラプンツェルのランタンフェスティバル	2024年6月6日	¥2,000			
ピーターパンのネバーランドアドベンチャー	2024年6月6日	¥2,000			

※2026年4月28日時点で公表しているものを記載しています。

*1 2025年9月30日で終了しました。

*2 2025年7月2日～9月15日の間、対象でした。

*3 2026年1月14日～2027年3月31日の間、対象です。

指定された時間に短い待ち時間で施設をご利用いただける無料のサービス

東京ディズニーランド アトラクション	東京ディズニーシー アトラクション
スター・ツアーズ:ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー	インディ・ジョーンズ・アドベンチャー:クリスタルスカルの魔宮
ビッグサンダー・マウンテン	海底2万マイル
プーさんのハニーハント	タートルトーク
ホーンテッドマンション	ニモ&フレンズ・シーライダー
モンスターズ・インク"ライド&ゴーシーク!"	マジックランプシアター
	レイジングスピリッツ

※2026年4月28日時点で公表しているものを記載しています。

2026年3月期 テマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	★ 1/15～6/30 NEW イツ・ア・スモールワールド with グルーツ									★ 2025/12/27～2026/6/28 イツ・ア・スモールワールド with グルーツ		
	★ 4/8～6/30 NEW 「ディズニー・バルバラーザ」第4弾 「ドナルドのクワッキー・ダック！ダック！ダックシティ！」					★ 9/17～10/31 「ディズニー・ハロウィーン」			★ 1/1～1/12 お正月のスペシャルイベント			
	★ 4/8～6/30 NEW 「スター・ツアーズ:ザ・アドベンチャーズ・ コンティニュー」スペシャルバージョン			★ 7/2～9/15 NEW 「サマー・クールオフat Tokyo Disney Resort」				★ 11/11～12/25 NEW 「ディズニー・クリスマス」		★ 1/14～3/2 「ディズニー・バルバラーザ」第5弾 「ミニーのファンダーランド」		
東京ディズニーシー	★ 2025/4/8～2026/3/19 NEW 「ダッフィー＆フレンズ20周年:カラフルハピネス」											
	★ 4/8～6/30 「東京ディズニーシー・フード＆ワイン・フェスティバル」			◆ 7/16～ NEW 「ドリームス・テイク・フライト」(ハンガーステージ新規ショー)								
				★ 7/1～9/30 NEW 「We Love ビックバンドビート」						★ 1/14～3/19 「ディズニーストーリービヨンド」		
				★ 7/2～9/15 NEW 「サマー・クールオフ at Tokyo Disney Resort」		★ 9/17～10/31 「ディズニー・ハロウィーン」		★ 11/11～12/25 「ディズニー・クリスマス」		◆ 1/14～ NEW 「ダンス・ザ・グロブ！」 (ウォーターフロントパーク新規ショー)		
	★ 1/14～4/6 タワー・オブ・テラー: Level13					★ 9/17～11/2 NEW 「ラソス・デ・ラ・ファミリア」		★ 1/1～1/12 お正月のスペシャルイベント		★ 1/13～3/31 タワー・オブ・テラー“アンリミテッド”		

※2026年4月28日時点で公表しているものを記載しています。

★ スペシャルイベント・プログラム ◆ 新規アトラクション・ショーなど

2027年3月期 テマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	★ 2025/12/27～2026/6/28 イツツ・ア・スモールワールド with グルーツ						◆ 9/30～ The D-Groovationz4 Live: Happy! Funky! Groovy! Tour					
	★ 4/23～6/30 「スター・ツアーズ： ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー」 特別バージョン			★ 7/2～9/14 「ファンタイム・ウィズ・トイ・ストーリー5」		★ 9/16～10/31 「ディズニー・ハロウィーン」		★ 11/11～12/25 「ディズニー・クリスマス」				
	★ 4/9～6/30 「ディズニー・パルパルーザ」第6弾 「ヴァネロベのスイーツ・ポップ・ワールド」			★ 7/2～9/14 「サマー・クールオフ at Tokyo Disney Resort」						★ 1/1～1/11 お正月のスペシャルイベント		
				★ 7/2～9/14 「Reach for the Stars:Everlasting Dreams」								
東京ディズニーシー	★ 2026/4/15～2027/3/31 「東京ディズニーシー25周年 “スパークリング・ジュビリー”」											
	★ 4/15～6/30 「東京ディズニーシー・フード&ワイン・フェスティバル」											
				★ 7/2～9/14 「ファンタイム・ウィズ・トイ・ストーリー5」		★ 9/16～10/31 「ディズニー・ハロウィーン」		★ 11/11～12/25 「ディズニー・クリスマス」				
				★ 7/2～9/14 「サマー・クールオフ at Tokyo Disney Resort」		★ 9/16～11/2 「ラロス・デ・ラ・ファミリア」				★ 1/1～1/11 お正月のスペシャルイベント		

※イベントの名称、開催期間は変更になる場合があります。※2026年4月28日時点で公表しているものを記載しています。

★ スペシャルイベント・プログラム ◆ 新規アトラクション・ショーなど

ゲスト1人当たり売上高の増や諸経費の減などにより、各利益は期初予想を上回った

	(億円)			
連結損益計算書	2026年3月期 期初予想	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	6,933	7,045	111	1.6%
テーマパーク事業	5,601	5,683	82	1.5%
ホテル事業	1,172	1,190	17	1.5%
その他の事業	159	171	12	7.6%
営業利益	1,600	1,684	84	5.3%
テーマパーク事業	1,239	1,304	65	5.3%
ホテル事業	358	368	9	2.8%
その他の事業	△ 2	4	7	-
経常利益	1,608	1,696	88	5.5%
特別利益	-	5	5	-
税金等調整前当期純利益	1,608	1,701	93	5.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,133	1,218	85	7.5%

テーマパーク事業
売上高

入園者数は海外ゲスト数の減などにより若干下回ったものの、
商品販売収入の増などにより、売上高は期初予想を上回った

	2026年3月期 期初予想	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高(億円)	5,601	5,683	82	1.5%
入園者数(万人)	2,800	2,753	△ 47	△ 1.7%
ゲスト1人当たり売上高(円)	17,792	18,403	612	3.4%
アトラクション・ショー収入	9,540	9,608	68	0.7%
商品販売収入	4,906	5,227	320	6.5%
飲食販売収入	3,346	3,569	223	6.7%

入園者数の減

- ー 海外ゲスト数の減
- ー 前期のスペース・マウンテンなどのクローズ前需要による減
- ー ファンタジースプリングスの好調による増

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・ アトラクション・ショー収入はほぼ同様
- ・ 商品販売収入の増
 - ー レギュラー商品の増
 - ー 食品の増
 - ー ダッフィー&フレンズ20周年関連商品の増
- ・ 飲食販売収入の増
 - ー 高単価店舗の利用構成比の増
 - ー フードスーベニアの増

テーマパーク事業
営業利益

業績賞与の計上などにより人件費が増加したものの、
売上高の増や諸経費の減などにより、営業利益は期初予想を上回った

(億円)

	2026年3月期 期初予想	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	5,601	5,683	82	1.5%
営業利益	1,239	1,304	65	5.3%

営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の減	約 40
商品・飲食原価率の減	約 25	研究開発費の減	約 20
人件費の増	約△ 45	システム関連費用の減	約 10
業績賞与計上による増	△ 59	エンターテインメント関連費用の減	約 5
正社員人件費の減	約 15	その他	約 5
準社員人件費の増	約△ 5	※減価償却費はほぼ同様	
その他	約 5		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

ホテル事業

婚礼・レストラン収入による増などにより、期初予想を上回った

(億円)

	2026年3月期 期初予想	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	1,172	1,190	17	1.5%
ディズニーホテル	1,081	1,096	15	1.4%
その他ホテル	91	94	2	2.7%
営業利益	358	368	9	2.8%

売上高の増

- 婚礼・レストラン収入による増

営業利益の増

- 売上高の増
- 人件費の増(約△15億円)
 - ー 業績賞与の計上による増
- 諸経費の減

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

その他の事業

その他の事業は、売上高、営業利益ともに期初予想を上回った

(億円)

	2026年3月期 期初予想	2026年3月期 実績	増減	増減率
売上高	159	171	12	7.6%
営業利益	△ 2	4	7	-

売上高の増

- ・ イクスピアリ事業の増
- ・ モノレール事業の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2025/3 実績	2026/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	594	750	155	
東京ディズニーランド	331	447	116	『シュガー・ラッシュ』の世界を舞台としたアトラクションの増 スペース・マウンテンの増 更新改良の増
東京ディズニーシー	591	175	△ 415	*前年同期、東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの投資額の一部を その他から東京ディズニーシーに固定資産計上したことによる減 更新改良の増
その他	△ 328	127	455	*前年同期、東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの投資額の一部を その他から東京ディズニーシーに固定資産計上したことによる増
ホテル事業	82	27	△ 54	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他の事業	226	84	△ 141	クルーズ事業の減
(消去又は全社)	△ 1	△ 0	1	
合計	902	862	△ 39	

(億円)

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2025/3 実績	2026/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	555	557	1	
東京ディズニーランド	174	153	△ 21	東京ディズニーランド大規模開発の減
東京ディズニーシー	286	312	26	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの増
その他	94	91	△ 3	
ホテル事業	70	78	7	
その他の事業	29	30	1	
(消去又は全社)	△ 1	△ 0	0	
合計	654	665	11	

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2026/3 実績	2027/3 予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	750	1,160	409	
東京ディズニーランド	447	509	61	更新改良の増
東京ディズニーシー	175	419	244	メインエントランス改修、劇場施設改修の増
その他	127	231	103	バックステージ環境改善、システム投資の増
ホテル事業	27	155	127	京都ブライトンホテルのリニューアルの増
その他の事業	84	1,002	917	クルーズ事業の増
(消去又は全社)	△ 0	△ 2	△ 2	
合計	862	2,314	1,452	

(億円)

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2026/3 実績	2027/3 予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	557	555	△ 1	
東京ディズニーランド	153	135	△ 18	東京ディズニーランド大規模開発の減
東京ディズニーシー	312	322	9	
その他	91	98	7	
ホテル事業	78	78	0	
その他の事業	30	34	3	
(消去又は全社)	△ 0	-	0	
合計	665	669	4	

連結貸借対照表	(億円)		
	前期末	当期末	増減
A.資産の部			
流動資産	5,253	6,752	1,498
固定資産	9,131	9,538	407
資産合計	14,385	16,290	1,905
B.負債の部			
流動負債	2,358	2,063	△ 294
固定負債	2,252	3,226	974
負債合計	4,611	5,290	679
C.純資産の部			
株主資本	9,610	10,626	1,016
その他の包括利益累計額	163	373	209
純資産合計	9,774	11,000	1,226
負債純資産合計	14,385	16,290	1,905

【A. 資産の部 1,905億円の増(13.2%増)】

I. 流動資産 1,498億円の増
(1)現金及び預金の増 1,447 億円

II. 固定資産 407億円の増
(1)設備投資による増 862 億円
(2)投資有価証券・その他の増 215 億円
(3)減価償却による減 △665 億円

【B. 負債の部 679億円の増(14.7%増)】

I. 流動負債 294億円の減
(1)1年内償還予定の社債の減 △300 億円

II. 固定負債 974億円の増
(1)社債の増 800 億円
(2)長期借入金の増 86 億円
(3)その他(主に繰延税金負債)の増 85 億円

【C. 純資産の部 1,226億円の増(12.5%増)】

I. 株主資本 1,016億円の増
(1)利益剰余金の増 989 億円
・親会社株主に帰属する当期純利益による増 1,218 億円
・配当による減 △229 億円

II. その他の包括利益累計額 209億円の増
(1)繰延ヘッジ損益の増 145 億円
(2)退職給付に関わる調整累計額の増 42 億円



株式会社オリエンタルランド コーポレートコミュニケーション部IRグループ
www.olc.co.jp

注意事項:

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おさください。

テーマパーク入園者数、ゲスト1人当たり売上高については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。
本資料の転載はご遠慮ください。